



令和7年12月18日（木）

第5回 パラスポーツの振興とバリアフリー推進 に向けた懇談会



パラスポーツの振興と
バリアフリー推進に向けた懇談会

「 東京都の取組 」

＜報 告 ＞

- ・ 報告事項 1 パラ応援大使活動報告
- ・ 報告事項 2 世界陸上・デフリンピックにおける都の取組
- ・ 報告事項 3 都におけるバリアフリー化の主な進捗状況

報告事項1

パラ応援大使活動報告 ①関連イベントへの参加

- ・ パラ応援大使が関連イベントへ参加し、パラスポーツとバリアフリーの普及に加え、世界陸上・デフリンピックを盛り上げ
- ・ 参加の様子はSNSで発信するとともに、パラ応援大使と連携して拡散

7月	8月	9月	10月	11月	12月
<p>7/7 東京2020大会 メモリアルデーイベント</p>  <p>参加大使 - 稲垣 具志氏 - 高橋 儀平氏 - 二條 実穂氏 - 根木 慎志氏 - 菅原 滋男氏 - 猪狩ともか氏 - 野村 祐介氏</p>	<p>8/7 デフリンピック 100日前イベント</p>  <p>参加大使 - 稲垣 具志氏 - 二條 実穂氏 - 三浦 浩氏 - 菅原 滋男氏</p>	<p>9/13 東京2025世界陸上</p>  <p>参加大使 - 稲垣 具志氏 - 高橋 儀平氏 - 二條 実穂氏 - 三浦 浩氏 - 猪狩ともか氏</p>	<p>11/22 スポーツFUNPARK 東京2025デフリンピック</p>  <p>参加大使 - 二條 実穂氏 - 根木 慎志氏 - 三浦 浩氏 - 菅原 滋男氏 - 高橋みなみ氏 - 野村 祐介氏 - 萩本 欽一氏</p>	<p>12/6 ヒューマンライツ ・フェスタ東京2025</p>  <p>参加大使 - 菅原 滋男氏 - 野村 祐介氏</p>	

報告事項1

パラ応援大使活動報告 ②大使からのメッセージの発信

- ・世界陸上・デフリンピックの開催気運の醸成に向けて、
パラ応援大使からのメッセージをSNSやイベント会場等で幅広くPR
– 22組の大天使からのメッセージ – 競技会場や選手宿泊施設等でも発信



＜パラ応援大使からのメッセージ＞



＜パラ応援大使 公式Instagram＞



東京都 公式X

報告事項1

パラ応援大使活動報告 ③イベント活動実績

- ・パラ応援大使は、パラスポーツの普及やパラアスリートの活躍、福祉のまちづくりを社会に広めるため、さまざまなイベントで活動

分野	主なイベント・キャンペーン	
パラスポーツ	TEAM BEYOND 街なかパラスポット	8月3日（日） 猪狩ともか氏
	BEYOND STADIUM 2025 パラスポーツ広場	11月1日（土） 2日（日） 猪狩ともか氏 風間俊介氏
	冬季パラリンピック応援企画“応援のチカラ”プロジェクト	11月30日（日） 上原大祐氏
	特別支援学校体験教室 車いすテニスステップアップ教室	12月～2月 6回 二條実穂氏
バリアフリー	「心のバリアフリー」サポート企業連携事業 企業向けセミナー	10月14日（火） 猪狩ともか氏
	ヒューマンライツ・フェスタ東京2025 「心のバリアフリー」ポスターコンクール表彰式	12月6日（土） 高橋儀平氏

※12月時点

<活動イメージ>



BEYOND STADIUM

“応援のチカラ”プロジェクト



企業向けセミナー（オンライン開催）



ヒューマンライツ・フェスタ東京

- 世界陸上・デフリンピックは、スポーツの力を改めて実感する大会となり、両大会を通じて、共生社会実現に向けた歩みが加速

子供たちの参画

子供たちが大会に参画できる機会を幅広く創出



大会期間中、都内小学生約3,000人が、国立競技場で、アスリートから陸上競技の指導を受ける**世界陸上リアル教室**を開催



会場での観戦を通じて、スポーツの素晴らしさや夢と希望を届け、共生社会の大切さについて考えるきっかけとなるよう、都内の小中高等学校等の子供たちなど約5万人に**競技観戦の場**を提供

現地への参加が困難な重
度障害のある子供たちが、
福祉・医療施設から**分身ロボット**を遠隔操作して
トラックを走行し、**世界陸上リアル教室**に参加した小学生と交流



子供たちが大会に興味を持ち、**デフスポーツやろう文化**について学べるよう、ハンドブックや動画等の教材を制作、学校へ事前配布

スポーツを通じた共生社会づくり



■ 目で見る応援“サインエール”を開発

手話表現をベースに視覚的な動きでデアスリートに応援を伝える新しい応援スタイル「サインエール」をろう者やデアスリートとともに開発。

きこえる・きこえないに関わらず観客一丸となって選手を応援

■ ユニバーサルコミュニケーション（UC）技術の活用

競技会場等において、デジタル技術を活用したコミュニケーションのサポートや競技観戦を提供



透明ディスプレイ



ミルオト



スマートグラス

※透明ディスプレイは、110箇所の都有施設に導入

アクセシビリティの向上

■ オールウェルカムTOKYO

- 世界陸上・デフリンピックの開催時期を中心とした期間（9～12月）に、鑑賞サポート等を通じて芸術文化のアクセシビリティを高める機運醸成キャンペーン「オールウェルカムTOKYO」を開催
- 都立文化施設をはじめ都内美術館、博物館、劇場や芸術文化団体等と連携し、鑑賞サポートの輪を広げ、一体的に発信

《様々な鑑賞サポート（例）》

- ◆見る（手話通訳、バリアフリー字幕）
- ◆聞く（バリアフリー音声ガイド、聴覚補助機器）
- ◆触る（点字ガイド、触れられる展示）



舞台手話通訳



バリアフリー字幕

- 11月には、「オールウェルカムTOKYOデフ・スペシャル」として、駅やホテル、商業施設でUC技術等を活用したおもてなしを展開



手話言語通訳付動画



みえるアナウンス

《取組内容（例）》

- ◆都立公園・動物園：手話言語通訳付動画による施設紹介
- ◆東京メトロ：駅のアナウンスをスマホに文字化して「見える化」
- ◆選手宿泊ホテル：多言語翻訳タブレットを活用したフロント対応

※上記の取組は、大会後も継続



報告事項3 都におけるバリアフリー化の主な進捗状況 ハード面（令和6年度末）



エレベーター等による段差解消
(R元末 95.9% → R6末 98.0%)
※都営地下鉄100%



ホームドアの整備
(R元末 45.7% → R6末 57.5%)
※都営地下鉄100%



車椅子使用者対応トイレの整備
(R元末 96.8% → R6末 97.5 %)
※都営地下鉄100%



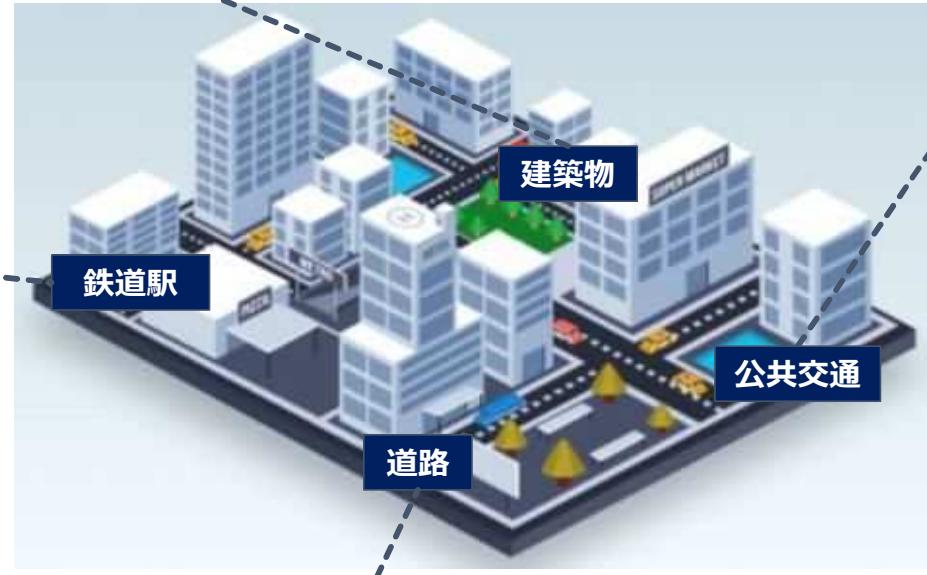
宿泊施設のバリアフリー改修等支援
(R6実績 25件) ※R7.8月末時点（交付申請ベース）



ユニバーサルデザインタクシーの導入支援
(R6末 19,577台)



ノンステップバス普及状況
(R元末 94.3% → R6末 96.7%)
※都営バス100%



まちの面的なバリアフリー化
(R6末 バリアフリー基本構想：21区10市)
(R6末 移動等円滑化促進方針：6区4市)



エスコートゾーンの整備個所数
(R元末 695か所 → R6末 926か所)



都道のバリアフリー化
・特定道路等の整備
(H27末 327km【完了】)
・優先整備路線の整備
(R元末 119km → R6末 157km)



都道※の無電柱化
※計画幅員で完成している歩道幅員が2.5m以上の都道
(R元末 38% → R6末 48%)

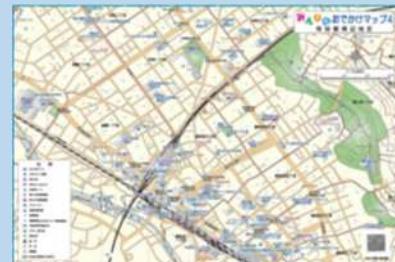
報告事項3 都におけるバリアフリー化の主な進捗状況 ソフト面（令和6年度末）

情報バリアフリー

デジタル技術を活用した聴覚障害者コミュニケーション支援事業



バリアフリーマップ作成・更新 (R6実績 6区3市)



とうきょうユニバーサルデザインナビ



だれもが外出に必要な情報が集約されたポータルサイト

心のバリアフリー



「心のバリアフリー」HP

- 共生社会の実現を目指すための情報発信サイト
- 心のバリアフリーについて学べるコンテンツを掲載

ユニバーサルデザイン学習 (R6実績 9区3市)



高齢者・障害者など当事者参画の取組 (R6実績 18区14市2町)



都民への普及啓発



ヘルプマークを知っていますか?
援助が必要な方のためのマークです。

外見からは分からないでも援助が必要な方がいます。
このマークを見かけたら、電車内で誰かをめざむ。
困っているふうであれば声をかける様、
思いやりのある行動をお願いします。

ポスター・コンクール・障害者等用駐車区画の適正利用・ヘルプマークなど

全ての人が輝くインクルーシブな街・東京へ

2021年
東京2020大会



2025年
世界陸上・デフリンピック



2026年
東京大会5周年

- ・東京2020大会で生まれたレガシーが、2025年の両大会で**継承・発展**
- ・東京パラリンピックを契機に生まれた“**パラ応援大使**”は、パラスポーツ及びバリアフリー等の分野で幅広く活動し、**共生社会の実現**に貢献

【活動イメージ】



TEAM BEYOND
BEYOND STADIUM 2025



心のバリアフリー「企業向けセミナー」
(オンライン開催)



冬季パラリンピック
“応援のチカラ”プロジェクト



“スポーツの力”で未来を切り拓き、「インクルーシブな街・東京」
を実現するため、レガシーを東京に根付かせていく

「世界陸上とデフリンピックのレガシーを 未来へつなぐ」

～更なるパラスポーツ振興とバリアフリー推進に向けて～

<意見交換>

「大使の方々にご協力いただいたアンケート」

- ①世界陸上・デフリンピックが開催されましたが、両大会を通じて印象に残ったことがあれば教えてください。
- ②2020大会、そして世界陸上・デフリンピックを通じて**生まれたレガシー**について、**未来の東京**にどのように受け継いでいくべきだと思いますか。
- ③来年は**東京パラリンピックから5周年の節目**を迎えます。大使として、やりたい活動・発信があればお聞かせください。

事前アンケート①

世界陸上・デフリンピック両大会を通じて印象に残ったこと

【大会観戦】

- 子供たちへの企画が素晴らしく、スポーツへの興味関心を更に高めることのできる企画だった。
- 満席の観客と歓声の大きさが今でも耳に残っている。音がなくても、通じ合う選手たちの姿に感動。スポーツの持つ力を実感した。
- 世界陸上の歓声、デフリンピックのサインエール。“応援が選手を動かす瞬間”に胸が熱くなった。
- アスリートの日ごろの努力が結実したシーンには東京2020大会に續いて大きな勇気を頂いた。

【大会を取り巻く環境】

- 選手の活躍に加え、話した言葉が文字起こし・翻訳されるパネルなど最新のテクノロジーに驚いた。
- 世界陸上は勿論、デフリンピックを見に来る観客が多くかった。2019年のパラスポーツを取り巻く環境と全てが違って来た。
- 開会式と閉会式が観客との一体感が素晴らしい式典になっていた。多言語を持つ大勢の人々が、音や言語に頼らずコミュニケーションが取れる事を体験した。

事前アンケート②

両大会のレガシーについて、未来の東京にどのように受け継いでいくべきか

【更なるスポーツ活性化】

- 競技を観て生まれるスポーツへの関心を、市民の日常的なスポーツ行動につなげていくことが必要
- スポーツをやってみたいと思った子供は大会を通して増えているため、その受け皿が整うことが未来を創ることにつながる。
- パラスポーツを通して、みんなで工夫する楽しさ、それが社会に通じていることを伝えていきたい。
- サインエールに感動した。どんな人にも届く応援文化は、サポーターとしても楽しく、一体感が生まれて良い。

【共生社会の推進】

- 子供たちへの取組を通じて、スポーツ振興や障がいに対する理解も深まる。
- 2020 大会以前に比べて障害者スポーツ関連のイベントも増え、身近になって来た。東京はこれから共生社会を実現し続ける先頭に立って、さらに世界中から愛される街になってほしい。
- 施設や技術を次の世代のために残し守る『思いやる文化』を常に育て行くことがレガシー

事前アンケート③

東京パラリンピック5周年に向けた、大使の活動・発信のアイデア

【大使が行いたい活動・発信】

- パラスポーツの知名度や関心は着々と上がっているので、さらに盛り上げていけるような活動
- パラ競技の魅力を言葉や発信で広め、観戦のハードルを下げたい。誰もが参加できる応援の形も広めていきたい。
- 若い世代から持続可能性への意識を育てる、オリパラレガシー教育を広めたい。
- パラ応援大使と子供たちが一緒にスポーツ観戦

【その他】

- 国内の各種大会でも、今回の世界大会と同様に出会え、支援できる広がりが必要
- 都民だれでも運動会のようなイベントに自然とパラスポーツが融合しているイベント
- 共生社会の実現に向けて、解決していかなければならない点は多いが、スポーツの世界から改善できることは多いと考える。

アンケート（1）

世界陸上・デフリンピックが開催されましたが、両大会を通じて印象に残ったことがあれば教えてください。

- ・ 世界陸上はテレビで観ました。デフリンピックはみんなで水泳を観に行きました。やはりスポーツの持つ力を実感しました。
- ・ 両大会とも素晴らしい大会でした。各競技はYoutubeの配信やTV等で視聴していただけなのですが、アスリートの皆さんのがんばり努力が結実したシーンには東京2020大会に續いて大きな勇気を頂きました。開会式と閉会式も観客との一体感が素晴らしい式典になっていたと思います。
- ・ 世界陸上・デフリンピック共に、子供たちへの企画が素晴らしく、スポーツへの興味関心を更に高めることのできる企画だと感じました。
- ・ デフリンピックには開閉会式とバレーボールの会場にパラ応援大使の皆さんと参加しました。競技会場での印象は、障害問わず誰もがサインエールなどで選手たちを応援していた姿です。
- ・ 両大会とも日本人選手の活躍が目覚ましく、世界陸上は2020東京大会の強化が実を結んでおり、デフリンピックもオリパラ自国開催の好影響を受けたものと考えられるポジティブな結果だったと思います。
一方で、争っている国同士の選手が目も合わせず握手もしない状況が続いていることはとても残念で、平和創造をするためのスポーツが本来の姿を取り戻してほしいと願います。
- ・ 国立競技場の満席の観客と歓声の大きさが今でも耳に残っている。
音がなくても、通じ合う選手たちの姿に感動。
伝える、伝わるは言葉だけじゃない、心で感じ、心で伝える力を再認識した。
- ・ デフリンピック開会式での入場は、阿波踊りの振動が身体に伝わってきて、いつも以上にわくわくする行進を見ることができました。
- ・ 選手の皆さんの活躍の他に、最新のテクノロジーにも驚きました。
槍投げの槍を運ぶ自動運転の小さな車や、話した言葉が文字起こし・翻訳されるパネルなど色々と見ていて楽しかったです。
- ・ 閉会式に参加させて頂いた時、多言語を持つ大勢の人々が音や言語に頼らずコミュニケーションが取れる事を体験しました。
- ・ 選手たちの、競技に取り組んでいる姿を見て「夢と勇気と希望と感動」を与えてくれている。スポーツの偉大さに改めて敬意を表します。
- ・ やはり自国開催は盛り上がりますね！
世界陸上の歓声、デフリンピックのサインエール。
形は違っても“応援が選手を動かす瞬間”があって、胸が熱くなりました。
- ・ 自国開催の大会は熱気がまた格別に感じることができ、日本選手の成長、レベルの向上に感動しました。

- ・世界陸上は勿論ですが、デフリンピックを見に来る観客の方が多かった事。
女子バレー日本 vs カナダは超満員。
2019 のパラスポーツを取り巻く環境と全てが違って来た！
- ・機会があるごとに応援の形やゲームの内容、方法を知る場が与えられていたのか、
サインエールも気持ちがひとつになって楽しそうでした。
- ・みなさま、大健闘でしたね。素晴らしいかったです。耳が聞こえない、聞こえづらい方々のス
ポーツイベントが日本で開催され、より多くの方々がこのスポーツの大変さを感じられたこ
とと思います。応援の仕方が拍手ではなく、両手を挙げてキラキラ星のようにするあのポー
ズが素敵でした。

アンケート（2）

2020大会、そして世界陸上・デフリンピックを通じて生まれたレガシーについて、未来の東京にどのように受け継いでいくべきだと思いますか。

- ・ 競技を観て生まれるスポーツへの関心を、市民の日常的なスポーツ行動につなげていくことが必要かと。
- ・ 今大会を契機に多様なスポーツを通して社会の在り方、私たちの行動をもう一度見直す機会になったと思います。各種学校や地域・地区で障害のある人が、どんなことでも自らの想いを素直に表現してもらうことができる身近な環境の変化が大切だと思います。
スポーツ以外の活動でもその場面を少しでも増やすことが私たちの責務です。
- ・ 子供たちへの取組はこれからも継続して行って欲しいです。それにより、スポーツ振興や障がいに対する理解も深まると考えます。
- ・ 2度のパラリンピックの開催、そして100周年記念大会を開催した東京。世界で類のないこの東京だからこそ、この経験を活かし更なる共生社会の実現に向けて、誰もが違いを認めて素敵に輝く社会を目指していきたい。
- ・ 強化施策の継続も大切ですが、自分もスポーツをやってみたいと思った子供は大会を通して増えているので、その受け皿の整備（普及育成）が整うことが未来を創ることにもつながると考えます。
- ・ 大会で生まれたものは、設備だけではなく『人の心』
施設や技術を次の世代のために残し守る
『思いやる文化』を常に育て行くことが生まれたレガシーだと感じます。
- ・ パラスポーツを通して、みんなで工夫する楽しさ、それが社会に通じていることを伝えていきたいと考えます。
- ・ 東京はスポーツを通じて、これから共生社会を実現し続ける先頭に立って、さらに世界中から愛される街になってほしいです。
- ・ お互いに違う事を知る機会を得られました。
今まで以上に「公共の場」や「教育の場」で持続させて行く事が明るい未来に繋がりますね！
- ・ 都内の競技場、運動公園等にレガシーたちの名前を冠した所を創る。
- ・ 観戦時に感動したのがサインエールです。
どんな人にも届く応援文化は、サポーターとしても楽しく、一体感が生まれて良いなと思いました。
スポーツの多様な魅力と楽しさを結びつけたいです。
- ・ まだ隠れている才能、能力のある方々のポテンシャルを引き出すことの出来る 良き指導者を発掘や教育をしていくことが大切かと思います。

- ・ 2020 大会以前に比べて障害者スポーツ関連のイベントも増え、身近になって来た。
これらの生み出された物を労なく、コピペ出来る様に落とし込み、各地で気軽に開催すべき。
又、空いたリソースでアップデートも重要だが他の新しいものを生み出す。
- ・ コミュニケーションツールの多様化、活発化の継続を止めることのないように。
- ・ 身体に不具合があったとしても努力することで可能にできることが、こんなにもたくさんあって、多くの可能性を生みだすことを体現しておられることに、感動をおぼえました。
心地よい日常を作り出す気遣いを多く広めていくことがこの大会を通じて、理解し合えることになると思いました。

アンケート（3）

来年は東京パラリンピックから5周年の節目を迎えます。大使として、やりたい活動・発信があればお聞かせください。

- ・ オリ・パラで東京のスポーツ施設のレベルは上がりましたが、東京以外での広がりは弱いと感じています。それをどう上げていくかが課題だと考えています。
- ・ デフのトップアスリートはかなり知られる存在になっていると思います。しかしこれのアスリートの存在は見えてきません。国内の各種大会でも、今回の世界大会と同様に出会い、支援できる広がりが必要ではないでしょうか。
できる限り当事者だけで閉じない仕組みを考えていきましょう。
- ・ 【パラ応援大使と子供たちが一緒にスポーツ観戦】
みんなで一緒に熱狂・感動・そしてそれが持っている可能性を体感しましょう！
- ・ 2022年8月に開催された「TOKYO FORWARD」のような、東京大会で活躍した選手、ボランティアの皆さんにも参加していただき、競技観戦やパラスポーツの魅力を再び伝えるイベントが出来ればよいですね。
- ・ 「パラスポーツ」の看板ではなく、「都民だれでも運動会」のようなイベントに自然とパラスポーツが融合しているイベントが増えれば良いなと思います。
- ・ 現在私が実施している中学1年～3年のオリパラレガシー教育講演会
1年生 オリパラスポーツ体験（スポーツを通じてチームワークと思いやりの気持ち）
2年生 障がい者の理解（車いす、白杖体験で利用者、介助者の気持ちを理解する）
3年生 国際理解 オリパラ開催都市に何を残したか？
若い世代からインフラや環境問題などの関心を持ち持続可能性への意識を育てる
オリパラレガシー教育講演会を広めたい。
- ・ 障害者差別解消法が民間企業でも義務化されたものの、解決していかなければならない点は多い。スポーツの世界から改善できることは多いと考えます。
- ・ パラスポーツの知名度や関心は着々と上がっていると思いますので、さらに盛り上げていけるような活動をしたいです。
大使の皆さんとチームを組んで、何かの競技のエキシビションマッチを開催したら楽しそうだと思いました。
- ・ 人類の「多様性」を知る事でもっと生き易くなる人が増えると思います。
負の思いを逆転させる様な喋り場を増やせたら良いですね！
- ・ パラリンピックのテーマ曲を創って「東京五輪音頭」の様に、後々まで歌い継がれて行くような楽曲を歌って行きたい。
- ・ パラ競技の魅力を言葉や発信で広め、観戦のハードルを下げたいです。
実際に観て感じることで、より楽しさが伝わるはず。
誰もが参加できる応援の形も広めていきたいです。
- ・ 個々の能力の持続的成長のために食を通じて何か伝えることができたら良いなと思います。
美味しい食事は人を笑顔にします。豊かな表情を、表情のある姿を見せてもらいたいと思います。

- ・ 増大したインバウンドの方々へ「食」を足す事で興味を持って貰い、
体験として各国へ持ち帰り東京の取り組みや日本人の優しさを伝えたい。
(食べるのが容易なお結びや手が不自由な方でも使えるドリンクホルダーの開発なども良い)
- ・ パラスポーツの関心度を高めることの応援を。
- ・ 音楽の世界でもご自身の身体が思うように使えないけれど、音楽活動を自分なりの手立てを考え、生みだしている方々が多くおられます。垣根を作らず交流できたらと思います。
足りないところを補いあって、ひとつの音楽を作りだしたいですし、みなさまの気持ちがあればできると思っています。